

Web カタログや PDF データも増えています、
営業手段の一つとして、紙でのカタログも欠かせないものです

製品カタログ 制作・印刷

Part 2

「中綴じ製本」を利用した少部数カタログ
(60 ページ以下のカタログに最適です)

お客様にとってのメリット

- ・ 渡すユーザーごとに内容を変えて作成できる
- ・ 無線綴じ製本等と比べて製本代が安価
- ・ 製本のとじしろがないので写真やイラストが見やすい
- ・ 少部数 (10 冊) でも作成できる

カタログ以外にも多様な用途

- ・ 取扱説明書
- ・ 社内報
- ・ 展示会資料
- ・ 会社案内
- ・ 広報誌
- ・ プレゼン資料

受取る側の利点

展示会などで 1 枚物のチラシを何枚も貰うより、
1 社で 1 冊にまとまっていると使用も保存もしやすい



株式会社 宏和

Kowa Corporation

東大阪市長田東 1-7-22 TEL 06-6789-2313 FAX 06-6789-2339

<https://www.d-kowa.co.jp/>

<https://scanning.jp/>

オンデマンド印刷 会社案内、パンフレット、チラシ、名刺、カード、封筒、シール、伝票、表彰状
冊子印刷 取扱説明書、カタログ、記念誌、広報誌、報告書、論文、自分史
電子化業務 紙文書・紙図面スキャニング(電子化)サービス、データエントリー(入力)、データコンバート
CAD 業務 CAD データ出力、CAD データ入力(トレース・設計)、電子納品データ作成
コピー・製本 大判コピー、カラーコピー、各種製本、ラミネート、パネル・看板制作
その他 人材派遣、人材紹介、マイクロ撮影、マイクロフィルムスキャニング、WEB 制作

(株)宏和が毎月お客様へお役立ち情報をお届けします。

コウワノ

MONTHLY NEWS LETTER Vol.45

2019

6

June

コウワノ

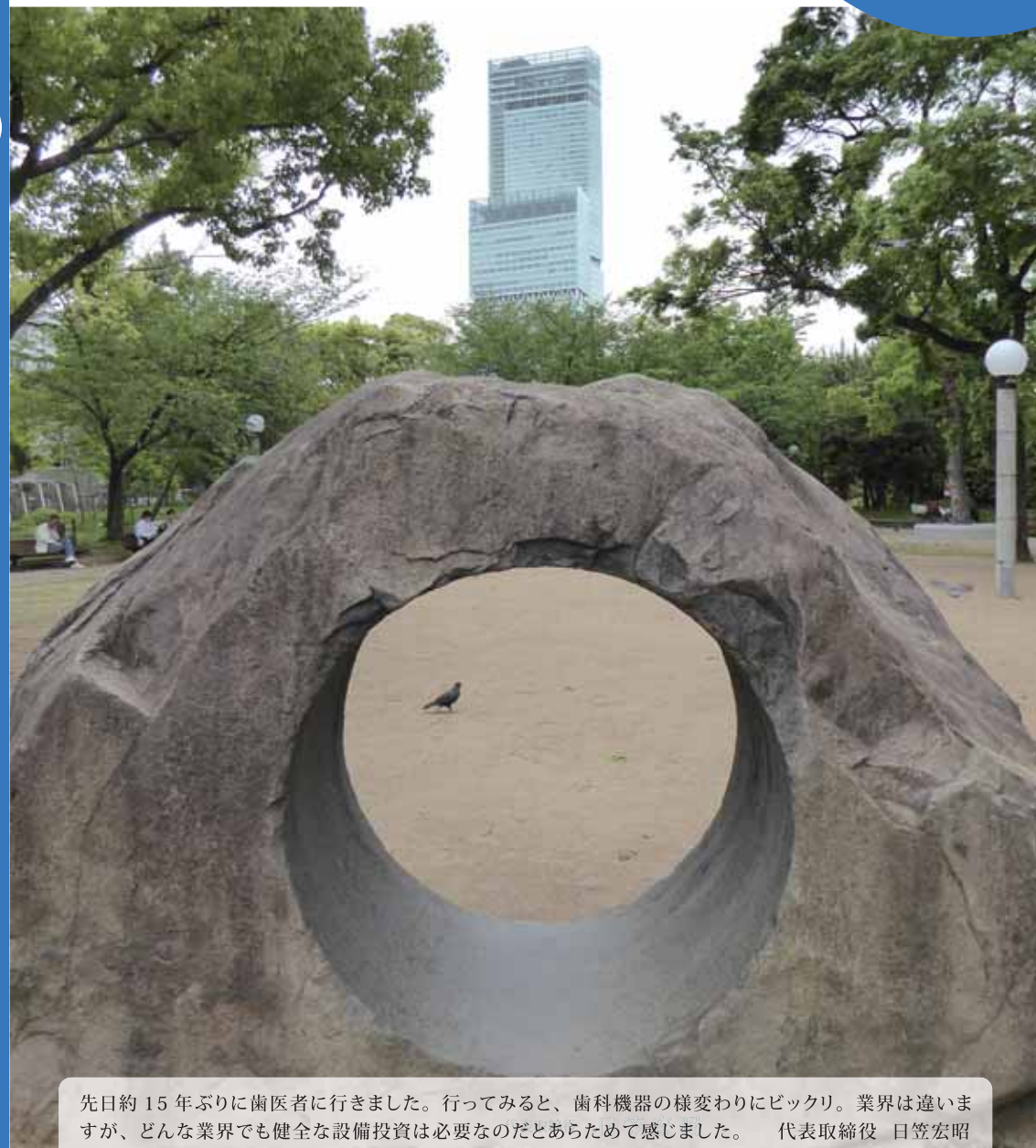
6

Vol.45

発行者：株式会社宏和
所在地：〒577-4001 大阪府東大阪市長田東 1-7-22

TEL 06-6789-2313

(株)宏和



先日約 15 年ぶりに歯医者に行きました。行ってみると、歯科機器の様変わりにビックリ。業界は違いますが、どんな業界でも健全な設備投資は必要なのだとあらためて感じました。 代表取締役 日笠宏昭

値上げや供給不足・・・ 印刷用紙・情報用紙はどうなっているのか？

今年3月頃から、印刷通販サイトでは、「現在全国的な用紙の供給不足の中、用紙が予定通りに入荷されない場合がございます。つきましては・・・」等のお詫びが掲示され、現在も完全には収束されていない状況です。今月は、印刷・情報用紙を取り巻く環境や実態を、メーカーや代理店からのヒアリングやニュース等からまとめてみました。

紙の種類

まず、紙は大きく分けると、「和紙」と「洋紙」に分かれます。「洋紙」は大きく分けると、下記の5種類になります。(経済産業省の分類)

- ・新聞巻取紙(新聞用紙)
- ・印刷・情報用紙(印刷用紙、コピー用紙、ノンカーボン紙、フォーム用紙、インクジェット用紙、など)
- ・包装用紙
- ・衛生用紙(ティッシュ、トイレトペーパー等)
- ・雑種紙

今月の対象はその中の「印刷・情報用紙」です。なお、経済産業省の分類では、段ボールや包装用の箱等に使う厚い紙(ボール紙)は、「板紙」とされ、「紙」とは区別されています。

日本の製紙メーカー

2018年の売上高でのランキングは下記です。

- 1.王子製紙(王子 HD) 1兆4,858億円
- 2.日本製紙 1兆464億円
- 3.レンゴー 6,057億円
- 4.大王製紙 5,313億円
- 5.北越コーポレーション 2,690億円
- 6.三菱製紙 2,014億円
(但し、レンゴーは段ボール・板紙が主力)

★売上高ランキング★

1	王子製紙	1兆4,858億円
2	日本製紙	1兆464億円
3	レンゴー	6,057億円
4	大王製紙	5,313億円
5	北越コーポレーション	2,690億円
6	三菱製紙	2,014億円

国内需要

2005年に1,933万トンの国内の紙需要が、毎年ジリジリ減少し、2018年には1,405万トンになっています。2018年の生産量は1,400万トン、輸入は75万トン、輸出が139万トンです。デジタル化の進行とともに紙需要は構造的減少傾向が続いており、製紙メーカー各社は、抄紙機の停止等による生産体制の再編成を迫られており、今回の状況の背景になっています。

値上げ

昨年11月に各社相次いで値上げを発表しました。(2019年1月1日出荷分から) 主要因は、原燃料価格と物流価格の上昇ですが、中国の古紙需要増加による古紙価格の上昇や、紙の原料であるチップ(70%は輸入に頼っている)の価格上昇もあります。今回の値上げは、各社ほぼ一律、印刷用紙20%以上、情報用紙10%以上という大幅なもので、値上げ幅圧縮の交渉や、時期の先送りにもほぼ応じてもらえず、2月には印刷用紙の卸値が2割上昇しました。

供給不足

もともと、不採算設備を停止し生産設備を縮小してきたところに、昨年の西日本豪雨や北海道の地震等の自然災害で設備が停止したことで流通在庫が減少していました。そんな状況で、年明け1月6日に大王製紙三島工場で火災が発生し、供給減に拍車をかけることとなります。そして、年度末の印刷需要に供給が追いつかない、という状況になってしまいました。今回、大幅値上げをしたにもかかわらず、供給不足ということで、印刷会社からの反発は根強いものがあります。

コピー用紙

オフィスで使うコピー用紙は、今回の状況にはあてはまらず、特に供給状況に問題もありませんでした。原因のひとつが、コピー用紙は輸入品が多いことです。(ネット通販で売られている白色度の高いコピー用紙は、インドネシア等からの輸入品が占めています。)

ティッシュペーパー不足

印刷・情報用紙ではありませんが、5月に入って、ティッシュペーパーも不足してきました。4月に王子製紙春日井工場で火災が発生し、1ヶ月近く生産を停止したことに加え、アジア最大の総合製紙メーカー、アジア・パルプ・アンド・ペーパーの子会社、ユニバーサル・ペーパー(国内シェア20%を占める)が卸値を10%値上げした影響です。安売りの目玉として使われるティッシュペーパーの国内価格は、インドネシア、中国に比べて安く、日本のメーカーも本音は生産量を増やしたくない、ということでしょうか。